

2015年度 個人特別研究費 研究成果報告書

所属・職・氏名：国際学部 教授 李 恩子

研究課題：ミクロネシア女性たちのオーラルヒストリーで辿る「南洋伝道団」の遺産の再構築

研究期間：2015年4月1日～2016年3月31日

研究成果概要 (2,000字程度)

本研究の起点となった、科研萌芽研究の「ミクロネシア女性たちのオーラルヒストリーで辿る「南洋伝道団」の遺産の再構築」においては、主に「南洋伝道団」が送られた歴史的背、彼らの果たした当時の働き、そして現在に続くそのレガシーを調べるという、かなり限定、特定した対象の研究であった。しかし、大学個人特別研究費の助成を得ることで、旧委任統治領全体（ミクロネシア、パラオ、マリアナス、マーシャル諸島）に亘る地域を比較考察する機会を得ることができた。それによって、日本のレガシー、そして当時の各地域に対する日本政府の政策の差異と共通点を知り得、この地域に対して多方面から検証することができた。

具体的には女性たちの記憶から住民たちの日本に対する記憶、そして、イメージを再構築するなかで、現在の彼・彼女たちのアイデンティティを探る上で新しい視点も得ることができた。その一つの例が彼・彼女たちの身体に与える影響つまり、食文化の変化、健康、保健医療という制度面から、日本統治時代とアメリカ統治時代を検証するという視点の導入である。この視点の成果は現在の科研基礎研究の共同研究者として参加していただいた韓国ソウル大学医科大学の黄教授の著書を翻訳するに至り、2017年度4月に関西学院大学出版会より出版される。

一見専門外的な医学史という分の翻訳作業を通して得られた知識と観点は、女性たちの身体、具体的には生殖に関する元来の問題意識をより広範囲に捉えなおす機会となった。その結果、この地域へのフィールドリサーチでのインタビューの内容、そして、訪問する公的機関の範囲が広がり、ミクロからマクロ、そしてミクロに戻るという考察が効果的に行うことができた。また、このプロセスを通して、過去の歴史が現在のこれらの社会と個人に影響している具体的な問題を知ることができた。この成果は関西学院大学国際学部国際学研究、2017年3月、に研究ノートとしてまとめ発表した。

学会発表は太平洋・アジア系アメリカ人女性の宣教と神学の年次大会で発表した。この地域についてとりわけ、日本の関与に関してほとんど知られておらず、多くの関心と質問を得ることができ、この地域における、国際政治あるいはポストコロニアルの問題としての宗教とジェンダーについて考える素材を提供することが出来たと思っている。

本報告書は、データで gakunai@kwansei.ac.jp まで提出してください。